



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月13日

上場会社名 株式会社ウチヤマホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 6059 URL http://www.uchiyama-gr.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 内山文治  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役経営企画室長 (氏名) 山本武博 (TEL) 093-551-0002  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	19,744	4.9	995	65.1	1,107	44.1	710	38.8
29年3月期第3四半期	18,816	5.0	602	161.8	768	132.4	512	△34.2

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 714百万円(37.9%) 29年3月期第3四半期 518百万円(△28.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	36.77	—
29年3月期第3四半期	26.42	26.38

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	31,688	15,316	48.3
29年3月期	30,355	14,794	48.7

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 15,316百万円 29年3月期 14,794百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
30年3月期	—	5.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,810	5.9	1,120	44.2	1,081	7.2	702	—	36.32

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2 平成30年3月期の通期の親会社株主に帰属する当期純利益の対前期増減率は100%を超えるため「—」と記載しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	21,618,800株	29年3月期	21,618,800株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	2,287,776株	29年3月期	2,287,776株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	19,331,024株	29年3月期3Q	19,382,843株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・当社では、個人投資家の皆様向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等については、当社ホームページをご確認ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に緩やかな回復基調にあるものの、個人消費の伸び悩みや緊迫した北朝鮮情勢など不確定な要素も多くあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境下におきまして、当社グループでは、各セグメントで事業戦略に基づく営業活動等を積極的に推し進めてまいりました。また、介護事業、カラオケ事業、飲食事業間において、相互のシナジー効果を向上させるよう様々な取り組みを企画し実践するなどして、積極的にサービスの付加価値向上に努めました。

経費面におきましても、コスト削減を進めることで経営の効率化を行い業績の安定化をはかりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は19,744,037千円（前年同期比4.9%増）、営業利益は995,039千円（同65.1%増）、経常利益は1,107,111千円（同44.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は710,841千円（同38.8%増）となりました。

各セグメントの業績は以下のとおりであります。

#### ①介護事業

介護事業におきましては、介護付有料老人ホーム3カ所、障がい児通所支援事業放課後等デイサービス「さわやか愛の家」を5事業所新規開設したほか、千葉県千葉市緑区のグループホーム18床を買収するなど、積極的な展開をはかりました。これらにより、当第3四半期末時点での営業拠点は89カ所161事業所となりました。既存施設におきましては、空室を減らすために、近隣の病院や居宅介護支援事業所への訪問による連携の強化を推進することで入居率の安定化を目指した結果、当第3四半期連結累計期間での既存施設の平均入居率は93.9%（前年同期既存平均入居率91.8%）となりました。これらの結果、売上高は11,954,926千円（前年同期比11.6%増）、セグメント利益は988,533千円（同26.6%増）となりました。

#### ②カラオケ事業

カラオケ事業におきましては、Web上のポータルサイトを積極活用し集客向上を図ったほか、スマートフォン向けのモバイル会員の勧誘を行うなどしてリピート客の増加に努めました。また、適正な人員の配置や業務オペレーションの効率化を推し進めコストの削減に努めました。この結果、売上高は5,755,394千円（前年同期比6.1%減）、セグメント利益は675,598千円（同22.0%増）となりました。なお、当第3四半期連結累計期間において新規の开店は行っておりませんが退店を3店舗行ったことから、当第3四半期末時点での店舗数は93店舗となりました。

#### ③飲食事業

飲食事業におきましては、既存店の業態変更を1店舗、カラオケ店舗からの業態変更を1店舗行った一方で退店を3店舗行ったことにより、当第3四半期末時点での店舗数は国内21店舗、海外3店舗となりました。既存店舗におきましては、集客が安定的に推移しました。また、新業態としてハイボール専門店「ハイボールバー 銀天街1923」を北九州市小倉北区にオープンさせ、新たな需要の創出に努めました。この結果、売上高は1,339,941千円（前年同期比3.8%減）、セグメント利益は15,438千円（前年同期はセグメント損失21,623千円）となりました。

#### ④不動産事業

不動産事業におきましては、販売用不動産の売買及び賃貸不動産の仲介業務等を中心に行っておりますが、主に販売用不動産の売却が進んだことから、売上高は499,768千円（前年同期比23.0%増）、セグメント利益は106,993千円（同11.3%増）となりました。

#### ⑤その他

その他におきましては、ホテル事業において、円安の影響による国内旅行の活性化に伴う需要の獲得を目指し、広告媒体を活用し宿泊客の増加に努めました。この結果、売上高は194,006千円（前年同期比7.6%増）、セグメント損失は26,723千円（前年同期はセグメント損失19,652千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ1,332,441千円増加し、31,688,316千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より750,800千円増加し、13,922,651千円となりました。主な要因は、現金及び預金、売掛金が増加したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末より581,640千円増加し、17,765,665千円となりました。主な要因は、有形固定資産（その他）が増加したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ811,042千円増加し、16,372,020千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末より1,732,260千円増加し、7,988,918千円となりました。主な要因は、短期借入金、流動負債（その他）が増加したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末より921,218千円減少し、8,383,102千円となりました。主な要因は、長期借入金が増加したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末より521,398千円増加し、15,316,296千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の連結業績予想につきましては、平成29年5月12日に公表いたしました業績予想数値から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,249,929	9,723,705
売掛金	1,731,381	1,932,938
有価証券	5,003	-
商品	68,073	107,326
販売用不動産	1,049,738	1,044,250
貯蔵品	174	304
その他	1,080,688	1,127,497
貸倒引当金	△13,138	△13,371
流動資産合計	13,171,850	13,922,651
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,721,059	7,333,447
土地	3,629,089	3,523,980
その他(純額)	1,011,502	2,112,264
有形固定資産合計	12,361,651	12,969,691
無形固定資産	45,800	48,990
投資その他の資産		
その他	4,849,802	4,817,192
貸倒引当金	△73,229	△70,208
投資その他の資産合計	4,776,572	4,746,984
固定資産合計	17,184,025	17,765,665
資産合計	30,355,875	31,688,316
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	347,593	372,469
短期借入金	844,600	2,186,000
1年内返済予定の長期借入金	2,225,201	2,467,644
未払法人税等	162,427	166,071
賞与引当金	235,260	135,482
ポイント引当金	229,762	156,300
株主優待引当金	11,815	-
資産除去債務	6,833	-
その他	2,193,162	2,504,950
流動負債合計	6,256,657	7,988,918
固定負債		
長期借入金	7,516,797	6,700,392
資産除去債務	214,653	225,059
その他	1,572,869	1,457,650
固定負債合計	9,304,320	8,383,102
負債合計	15,560,977	16,372,020

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,222,935	2,222,935
資本剰余金	2,666,282	2,666,282
利益剰余金	11,076,529	11,594,061
自己株式	△1,166,007	△1,166,007
株主資本合計	14,799,740	15,317,271
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,814	△1,579
為替換算調整勘定	972	603
その他の包括利益累計額合計	△4,842	△975
純資産合計	14,794,897	15,316,296
負債純資産合計	30,355,875	31,688,316

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	18,816,837	19,744,037
売上原価	16,925,609	17,474,448
売上総利益	1,891,228	2,269,589
販売費及び一般管理費	1,288,642	1,274,549
営業利益	602,585	995,039
営業外収益		
受取利息	7,076	4,231
受取配当金	28	1,824
受取手数料	60,969	70,168
受取保険金	55,245	55,748
その他	148,017	56,207
営業外収益合計	271,338	188,179
営業外費用		
支払利息	66,335	55,370
その他	39,289	20,736
営業外費用合計	105,624	76,107
経常利益	768,299	1,107,111
特別利益		
固定資産売却益	-	258,357
固定資産受贈益	5,785	-
投資有価証券売却益	18,437	9,739
負ののれん発生益	23,943	61,238
特別利益合計	48,166	329,335
特別損失		
固定資産売却損	3,817	72,859
固定資産除却損	-	769
減損損失	12,639	273,843
特別損失合計	16,456	347,472
税金等調整前四半期純利益	800,009	1,088,973
法人税、住民税及び事業税	170,499	255,349
法人税等調整額	118,473	122,783
法人税等合計	288,973	378,132
四半期純利益	511,035	710,841
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,065	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	512,100	710,841



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	511,035	710,841
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,472	4,235
為替換算調整勘定	△255	△368
その他の包括利益合計	7,217	3,867
四半期包括利益	518,252	714,709
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	519,198	714,709
非支配株主に係る四半期包括利益	△946	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	介護事業	カラオケ 事業	飲食事業	不動産事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	10,710,524	6,126,417	1,393,287	406,343	18,636,573	180,263	18,816,837	—	18,816,837
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	346	34,292	400	35,039	—	35,039	△35,039	—
計	10,710,524	6,126,763	1,427,580	406,743	18,671,613	180,263	18,851,876	△35,039	18,816,837
セグメント利益 又は損失(△)	780,638	553,976	△21,623	96,093	1,409,084	△19,652	1,389,432	△786,846	602,585

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△786,846千円の内容は、セグメント間取引消去354,984千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,141,831千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、退店した店舗及び移転・退店が予定されている店舗について、「カラオケ事業」セグメントでは268千円、「飲食事業」セグメントでは12,371千円の減損損失を計上しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	介護事業	カラオケ 事業	飲食事業	不動産事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	11,954,926	5,755,394	1,339,941	499,768	19,550,031	194,006	19,744,037	—	19,744,037
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	5,937	39,668	1,724	47,330	—	47,330	△47,330	—
計	11,954,926	5,761,331	1,379,610	501,493	19,597,362	194,006	19,791,368	△47,330	19,744,037
セグメント利益 又は損失(△)	988,533	675,598	15,438	106,993	1,786,564	△26,723	1,759,840	△764,801	995,039

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル事業を含んでおります。  
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△764,801千円の内容は、セグメント間取引消去361,517千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,126,318千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「カラオケ事業」セグメントでは215,260千円、「飲食事業」セグメントでは58,582千円の減損損失を計上しております。

(重要な負ののれん発生益)

「介護事業」セグメントにおいて、有限会社暮らしの里が運営しておりました千葉県千葉市の介護施設1施設を平成29年10月1日付で譲受けたことに伴い、当第3四半期連結累計期間において61,238千円の負ののれん発生益を計上しております。